横山左衞門

一、御家中死去人遺物之儀、向後跡目被仰付、繼目之御禮申上候刻上させ可被申候事。

朱書。唯今は死去人五十一日遺書指上候刻、遺物上之申候事。

一、せがれ無之跡目絶申者、爲冥加遺物上申度旨申置候ば、上させ可被申候事。

一、跡目不被仰付者は、遺物爲上申間敷事。

一、跡目不被仰付者、又はせがれ無之跡目絶申者居屋敷之儀、跡之かた付仕廻候はゞ、追付御屋敷奉行共請取候樣可被申付事。

一、御歩母衣者・者・御扶持方取跡目、公儀にも不被下候間、向後御家中も被仰付間敷候。乍然御家久敷罷在候者、或抽御奉公能仕候ものは可被仰付候事。

一、御歩行・母衣者・御扶持方取にても、せがれ親にもおとらず、其跡之御用勤器量成ものは、組頭致吟味可被召出事。

右之通被仰出者也。

萬治二年三月三日

御家中死去人遺物之儀、向後一統に被指止候。勿論遺書之儀は、唯今迄之通所存之趣書付指上、遺物之儀は其紙面に不及沙汰之旨被仰出候事。

右之趣被得其意、組・支配に發て可被申聞置候。組之内支配有之面々、其裁許之内遺書上之候ものには、申聞候樣可被相達候。同役中にも可有傳達候。以上。

十二月廿八日

二六　佳節及び諸事御禮献上物之儀御定

一、歳暮御祝儀、自分知二萬石以上御小袖二つ、同一萬石以上一荷一種、同三千石以上御肴一種充可上事。

一、端午・重陽御祝儀、自分知一萬石以上御肴一種充可上之事。

一、口切、自分知一萬石以上御肴兩種、其外一種充可上之。但、鶴・白鳥・初鮭等上之儀無用之事。

一、御奉公被召出候者、親又親無之ものは、兄一人宛太刀或鳥目・肴、應身躰可上之事。

一、跡目・新知拜領之御禮、自分知一萬石以上銀馬代・御小袖二重、同五千石以上銀馬代・御小袖三、同二千石以上銀馬代・御小袖二、同千石以上銀馬代、千石以下鳥目可上之事。

但、夏秋之内拜領之時は、應其節、或御單・帷子、或御袷可有献上之事。

一、御加增拜領之御禮、自分知先知一萬石以上銀馬代・御小袖二、同五千石以上銀馬代・綿十把、同二千石以上銀馬代・御肴一種、同千石以上銀馬代、千石以下鳥目可上之事。

一、緣邊被仰付御禮、自分知三千石以上御肴一種充可上之事。

一、一萬石以上年中二度、五千石以上一度之外、窺御機嫌進物飛脚等上申間敷事。

右被仰出之通相違有間敷者也。

萬治二年正月朔日

覺

一、御役儀被仰付候者、御太刀或以鳥目御禮可申上事。

一、御役料被下候節、献上物無用之事。

一、屋敷拜領仕者御肴献上無用之事。但、致登城御禮可申上事。

一、子弟等或御役儀或新知御加增知被仰付候節、其父兄御肴等上候儀無用之事。但、致登城御禮可申上候事。

以上

(萬治二年)
右巳三月十七日被仰出候。

一、新番御徒被召出候節、鳥目百疋可上之。年頭御禮錢は二十疋可致献上事。

一、新番組御徒被召出候節、親或兄登城御禮可申上事。

一、平組之御徒被召出候節、親・兄登城無用之事。

一、御射手・異風より以上被召出時は、親或は兄爲御禮登城可仕。但鳥目・御太刀前々献上之並は、其通に可仕候。御肴等上候儀は無用之事。

以上